祝　辞

大円卓とシャンデリア

九州大学名誉教授
口腔外科学第二講座　担当
岡　増一郎

九州大学を退官して20年余の月日が流れました。初代ということで着任後は講座の教育理念の確立を意図し試行錯誤の連続でした。

臨床講座であっても研究面では学際的研究を中心に進めたいと考えて特に大学院生には歯学部基礎講座、医学部、薬学部での研修に挑戦させました。適任の指導者が国内に不在の場合は海外の大学へ出向させることにしました。

その結果[4] 大学院修了者他14名の逸材を海外へ渡航させることができました。ドイツ3名、アメリカ6名、イギリス4名、その他1名でした。しかし反省点としては研究に連続性がなく本人限りで中断せざるをえない研究も多く認められるようになりました。然れど多くの教室員の切磋琢磨により学術業績は望外の成果[2, 3, 6]が認められるようになりました。写真1はシャンデリアと大円卓の医局での1987年4月の症例検討会の風景[1]でしょう。天井から吊り下がっているシャンデリアは歯科学口腔外科学講座の初代の問田亮次教授時代の備品です。大正時代のロマンを秘めた逸品です。黄桃色の茫洋とした輝きを現在も若き教室員に浴びせています。多くの示唆に富んだ発想を提起して教室員の活性化に貢献しています。一方、大円卓は1975年、秋に歯学部病院総看護部長より譲与されたものです。大型ですのでエレベーターは使えず教室員20名余で一階の総看護婦長室より三階の医局まで運び上げたものです。長径270cm×短径148cm×高さ75cmの長円形のテーブルで表板厚さ5cmの“ケヤキ材”であり、百年以上の年代物であり山形県の㈱天童木工から高く評価されました。歯学臨床研究棟改修工事も完了し、この大円卓も久保秀郎、大山順子先生方の御配慮により一新されて一階の口腔顎顔面外科学分野の医局にシャンデリアと共に設置され、多くの教室員に愛用されています。

参考資料

1) 平野　裕二：九州大学歯学部口腔外科学第二講座、東洋薬事報：28、13〜17、1987。
2) 岡　増一郎：岡　増一郎教授業績目録、太平印刷㈱、1995。
3) 白砂　兼光：九州大学口腔外科学第二講座－25年間の歩み、太平印刷㈱、2002。
4) 岡　増一郎：長期国際学術交流研究者一覧、九州大学第二口腔外科同窓会誌20、10、2003。
5) 岡　増一郎：ふるさと福島に生れて、太平印刷㈱、2007。
6) 白砂　兼光：白砂兼光教授退任記念誌、太平印刷㈱、2009。
(発表年月日順)

(写真1)[1] シャンデリアと大円卓(1987.4)
医局会、手術症例検討会、輪読会、新入局祝賀会、退局送別会等をはじめ年中賑わいの場でもあります。

(写真2)[5] 意気軒高－九州地区口腔外科親善野球大会で第4回〜第16回までの13連勝した九州大学口腔外科チーム。